

受入先	NPO 法人 穎娃おこそ会
役職	
隊員氏名	小野寺 宗貴
着任日	令和 5 年 7 月 1 日

活動月	令和 8 年 3 月（着任 2 年 9 カ月目）
主な活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 西穎娃駅での夜飲みイベント開催</li> <li>2 第 6 回北薩地区自主交流会への参加</li> <li>3 川辺町でのチャレンジショップでの取り組み</li> <li>4 今後の展望について</li> </ol>

## 1. 西穎娃駅での夜飲みイベント開催

3 月 6 日及び 7 日に、西穎娃駅で「夜飲みイベント」を開催しました。

駅の中でお酒を飲んで楽しむ。都市圏で出来る場所は増えつつありますが、西穎娃駅で行って見たらどのようになるのか実証してみることや、自動車を運転せずに列車を利用できるメリットを活かすことを目的に開催しました。

金曜日は、折からの風雨で屋外での開催が難しかったことから、急遽待合室も使って行いました。立ち飲み形式を考えていたので、仮設のカウンターも使いながら多くの来場者が楽しめるような形式にしました。

数名の方がお待ちいただいているのを見ながら準備を行い、17 時から始めました。

三俣通り会の方々、カレーショップや焼芋の事業者も参加していただき、有志による鉄道模型運転会やモツ煮のふるまいも好評でした。

お酒が進むにつれて、来場者からの笑い声や話し声が待合室や駅前広場に設置したテントから聞こえ、これまで見たことがないくらいの方々が終列車を見送りました。

土曜日は、昼の時間帯に穎娃高等学校生徒による規格外野菜販売及びキッチンカーの出店がありました。どこが規格外？と思うほどの新鮮な野菜に驚きつつ、来場者が続々と野菜を購入していく光景に、嬉しさを感じました。

終了後に準備するというハードスケジュールでしたが、無事に 17 時から開始できました。

引き続き残っていただいたキッチンカーのお菓子、パン、コーヒーの出店者、焼芋の事業者も参加していただきました。

前日に引き続いて開始直後から来場していただき、駅で飲めることを楽しまれていました。地域の方々が去り行く終列車に手を振っていただいた光景を見て、地域の方々の鉄道に対する愛着を感じました。

それぞれの日で 60 名以上の来場者がおり、列車で来場された方もいました。指宿～

枕崎間の駅から利用していただいた方が多かったのですが、鹿児島市内からお越しになった方もおり、「颯娃のまちを知るきっかけになった」との言葉をいただいたときは、嬉しい気持ちになりました。

両日ともに肌寒かったのですが、お越しいただいた方々をはじめとして、雨風に打たれながらも準備をしていただいたスタッフの方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。



## 2. 第6回北薩地区自主交流会への参加

地域おこし協力隊のメンバーが自主的に研修を企画する自主交流会に参加しました。企画段階から参加しており、今回は長島町で行いました。

小学生向けに、また戻ってきたくなるまちについて3分でまとめ、発表を行うことを目標に取り組みました。

課題解決に向けた手法を学んだ後、小学校の見学、現地で地域活性化に取り組んでいる方からの話を聞いてまとめることを行いました。私のグループは、観光協会会長であり、フェリーの運航会社の社長からのインタビューをまとめて、発表資料を作りました。

フェリーや次の担い手を作っていくことの大切さを、グループで撮った動画を編集したり、小学生に分かるように内容を考えたりするのは大変でしたが、発表時間までに間に合いました。個人での活動が多い中でグループで作っていく楽しさや大切さを学び、また参加者も楽しみながら学びを深めることができた交流会になりました。



### 3. 川辺町のチャレンジショップでの取り組み

昨年 9 月から今月にかけて、川辺町にあるチャレンジショップで地域おこし協力隊員とともに、水曜日または木曜日に喫茶を行いました。

隊員からの依頼もありましたが、現在は鉄道がない川辺町で鉄道について話してみたい、つながりを持つ機会を作りたいと思い、チャレンジしました。

行う日を水曜日から木曜日に移動したところ来客者が減ったりしましたが、案内を見て来ていただいた方や、降りしきる大雨の中を来ていただいた方もいて、事業を続けていくことの大変さと大切さを感じました。

何より良かったのが、地域の方同士やここで出会った方々がつながりを持てる場所を作れたことです。「ここで自分のライブをしたい」という方も来られ、ライブを開催したこともありました。

出会いのきっかけを作り、つながっていく

チャレンジした一歩が多くの方々のつながりの場となり、広がっていく

お越しいただきました方々に御礼申し上げます。



### 4. 今後の展望について

鉄道路線に愛着をもつ方との連携を深めていくことです。

鉄道路線は、地域の方だけでなく、遠方から利用される方もいらっしゃいます。

地域の方との連携を深めていく大切さもあつつ、遠方から利用される方のことも考えていく必要があることから、鉄道路線に愛着を持ち、多く乗っていただく方のことも考えていくことも大切な要素です。

着任当初から取り組んできましたが、今後も連携を深めつつ、各地の事例を見ながら取り組んでいきたいと考えております。